

こどもホリデーの支援プログラム

こどもホリデーは、長年保育の経験をもつ保育士、児童福祉に関係してきた職員、言語聴覚士としての専門分野で活躍する職員、など経験豊かな職員により支援プログラムを作成し、実践している事業所です。

こどもホリデーでは、五領域〈ア〉健康・生活 〈イ〉運動・感覚 〈ウ〉認知・行動
〈エ〉言語・コミュニケーション 〈オ〉人間関係・社会性 を踏まえ、お互いに関係しあう五領域を毎月のカリキュラムに組み込み、1日のスケジュールに沿って支援しています。

目標 ① 一人一人の子供の健康状態、生活を把握し、その子に適正な身体的、精神的な対応をする。
医療と関係している子供には、医療機関との連携を図る。
身の回りの生活習慣食事・排泄・着替えなど日常生活の中で意欲的に取り組めるように支援して行きます。

目標 ② 成長時期にある子供たちには、適度な運動、感覚遊びを取り入れ、いろいろの経験を取り入れ成長を促していきます。

目標 ③ 子供の成長に合わせて、職員とこどもの1対1の関係から小集団へと輪が広がり、信頼関係を広げて、自発的な行動が取れるように、支援していきます。

目標 ④ 子供の欲求を受け止めながら、共感していく中で、自信を持ち探求意欲が育っていきます。

目標 ⑤ 安全に生活する。
最近、地震、水害など災害が多く、日頃の訓練が大切になってきました。職員、保護者の方にもイザというときの方法を周知していきます。

以上のような目標のもと、具体的な支援方法

【家族支援】

最近、障害の中でも発達障害のお子さんが多くみられるようになりました。
「目が合わない」「落ち着きがない」「コミュニケーションが苦手」「人の気持ちや感情が読み取れない」
「かんしゃくを起しやすい」「集団生活についていけない」など。
保護者の方にペアレントトレーニングで話し合いしながらともに成長していきます。
また、個別懇談以外に保護者会を開き、研修会を兼ねて、保護者同士の話し合いの機会を作ります。

【地域支援】

こどもの生活環境を広げ、当たり前前の生活をする機会を作ります。
・こどもホリデーの近所の人に、外で出会って挨拶をする。

- ・小遣いをもってコンビニやスーパーで自分の好きなものを買物しお店の人とのやり取りをする。
- ・公園や近隣センター、子供が遊べる公共の施設など出かけ周りの人との交流を図る。
- ・カフェラポールのお客さんにあいさつする。

【移行支援】

インクルージョンの考えに基づき、地域社会の中で育ってほしいと思います。こどもホリデーに通っている子供も保育園や幼稚園・こどもルームに通って交流があります。また、幼稚園や保育園に通っていたが、少し療育を取り入れたいと逆に通所される方もいますが、お互いに連携をとりながら子供の成長を見守っていきます。

【こどもホリデーの毎日】

- ・始まりの挨拶をする。当番で挨拶してもらうことで、人前で挨拶することの自信を付けてもらう。
 - ・毎日のスケジュールに従って見通しを付けて行動します。
 - ・音楽活動により歌を歌い体を動かし、楽器演奏など楽しみながら感情を豊かにします。
 - ・天気の良い日は、毎日、四季を通して公園などで外遊びをします。外気に触れてお日様を浴び、体を動かし、気持ちもさわやかになります。
- 散歩は、自然の植物、昆虫など観察して楽しんでいきます。また交通ルールも学びます、地域の人たちとのふれあいもあります。散歩は、とてもいい支援だと思います。

【学習】

必要な子供には、宿題をはじめ、そのお子さんにあった学習をしています。その子に必要な課題を決めて取り組んでいます。

【SST（ソーシャルトレーニング）】

SSTを取り入れ集団生活における表現の仕方や、相手に意思を伝える、相手の気持ちを考えるなど社会性を身に付けます。ゲームやカードにより集団遊びの中に取り入れて順番を守る、ルールを知る。ともに共感するなど学びます。

【言語聴覚士】

毎日の生活の中で、遊びの中で自然に言葉の訓練を行います。また、時期を見て検査をしてどこにつまずきがあるかをはっきりデータで調べ、次への足掛かりにしています。

【ホリデーの管理農園】

野菜の収穫、芋ほりなど自然や土に触れています。